新聞はこの大い紙の中に作りましょう。文字は見やすいように、ハッキリとした字で書きましょう。

命って誰のもの??新聞

2024年8月
発行者 高後紗人

私は学校の授業・人権教室で、人権と命について学びました。そして、ふと『命って誰のものなんだろう?』と思いました。そこで、私自身が生まれた病院を訪ね、職業体験をさせてもらうことで自分なりの答えを考えてみることにしました。

私が生まれた病院ってどんな所。

札幌市にある札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル
今回は理事長でもある裕医先生にお話を伺いました。

Q1、この病院は何をしている病院ですか??
妊娠～出産をとおして全ての人に幸せを届ける病院です。

Q2、どんな職種の人が働いている病院ですか??
産婦人科医・小児科医・麻酔科医・助産師・看護師
薬剤師・臨床検査技師・栄養師・調理師・コンシェルジュ
医療ソーシャルワーカー・メディカルクラーク・事務
無料シャトルバスの運転手です。

Q3、あなたの職種・仕事内容を教えて下さい。
産婦人科医です。妊娠・出産のお助けをしています。
女性の健康を守るのも役割です。また理事長として
職員さんを幸せにすることも役割です。

Q4、どのような気持ちで働いていますか??
毎日が楽しいです。赤ちゃんが生まれてくるので
毎日とても幸せな気持ちになります。

他にも…

24時間365日お休みのない病院だよ。
スタッフみんなが交代制で
お母さんと赤ちゃんのサポートをしているよ。

小児科では退院後も赤ちゃんが健康でスクスク成長するように育児相談もできるよ。
また、予防接種外来もあり赤ちゃんが大きくなっても通える病院だよ。

職業体験

産婦人科医

鈴木先生

実際の患者さんの診察に同席させてもらいました。腹部超音波検査でお腹の中にいる赤ちゃんの成長の様子や健康状態を確認していました。診察中、先生と患者さんはニコニコ笑顔で嬉しそうでした。

実際に腹部超音波検査を体験しました。お腹の中にいる赤ちゃんが見えたことにビックリしました。また、心音を聞いた時は赤ちゃんの力強さを感じ、感動しました。私もニコニコ笑顔になりました。

小児科医

木村先生

小児専用の聴心器を使って自分の心音を確認しました。実際、生まれたての赤ちゃんは手足をバタバタと元気に動かして泣いているため、診察にはコツがいるということがわかりました。

赤ちゃん人形を使って新生児蘇生法を体験しました。赤ちゃんが上手に呼吸できない時に速やかにする治療です。また胸骨圧迫(心臓マッサージ)では小さな赤ちゃんの胸を押すのは力加減が難しいと感じました。常に練習が必要だと思いました。

今の私にできること

命を大切に…今の私に『できること』を考えてみました。

健康に気をつけて生活する
- 早寝早起き　・適度な運動をする
- 栄養バランスを考えた食生活をこころがける
  (ジュース・お菓子は食べ過ぎに注意する)
- 心の休息も大切にする
  (読書など自分のすきなことをする)

正しい知識を学び、交通ルールを守る

友だちとの関わりについて
- 自分の意見だけでなく、相手の意見も尊重
- 友達の長所を探す　・優しい声かけ

私の想い 命について

取材は、取材先の親や職業体験を通して、生まれてくる命が関わっていることがわかりました。たくさんの人の命の誕生をたくさんの人たちがとても楽しみにしているので、私は、命は自分とその周りにいる大切な人のものだと思いました。

妊婦さんとその家族

私のお友達のお母さん
現在、妊娠中で秋ごろ双子の赤ちゃんが誕生予定です!!お母さんとその家族の今の想いを聞きました。

妊婦さん
赤ちゃんがお腹にいるとわかった時はとてもうれしかったです。双子の赤ちゃんなので無事に生まれてきてくれるか…心配になる時もあるけれど病院の先生に気持ちを聞いてもらうことで安心します。

娘さん
ママから妊娠があった時とてもうれしく思いました。兄弟が増えるのが楽しみです。早くみんの赤ちゃんに会いたいです。

おじいちゃん
孫の誕生がとても楽しみです。家族が増えることは幸せなことです。私がこのごろいなくなっても私の"血"は受け継がれていく!!子供は"宝"です。健康に成長してほしいです!!

いつも明るく元気で太陽のようなお母さん
私も2人の赤ちゃんに会える日がとても楽しみです。
紗人より

編集後記

私はこの新聞を書いて、命に対する気持ちが深まりました。この新聞を読んだ方も命に対して気持ちの変化があったらうれしいです。